

『祭りの力で地域活性化を、そして元気のあるまちづくりへ』

- 一、 現在田舎でも都市でも凶悪な事件が後を絶ちません。最近では私の住む福岡市で母親が自分の子を殺害するという悲惨な事件がありました。しかしなぜこのような事件が起こったのでしょうか。この事件を深く見ていくとあることが判明しました。この事件母親は特別支援学級に所属している子を持つ親で、障害児を持つ親は世の中に無数存在しますが、その苦労は自分が経験しないと理解できないとてつもない苦労があるでしょう。もちろんこの母親も例外でなく悩みを抱えていたのでしょう。そしてこの事件はこの苦悩からの解放が殺人という結果に繋がったのではないのでしょうか。そこで私は考えます、この行為を一步手前で踏み止ませたり、そういう感情を和らげる事が出来るのはやはり周りの人達なのではないかと。そして周りの人達のサポートがあればこの事件は未然に防げたのではないかと。この事件に関わらずこういった地域の繋がりの低下が原因の一つとして起こった事件は多くなってきていると私は感じます。それは田舎でも都会でも言えることです。ではどうしたら地域の交流を深め、地域の繋がりを向上させることができるのでしょうか。

ここで私は今回のテーマである『祭り』を提案します。『祭り』、それは私たちの身近な所にあり、男性女性問わず子供から大人まで、すべてが楽しめるものです。規模、形式、種類等は地域によって実に様々で、大きな祭りともなれば全国から人が押し掛け、観客数が数百万を越す祭りまであります。また、起源も様々で、祭によっては何百年も昔に起源を持つものもあります。このように様々な祭りに、さらにそれぞれの『想い』であったり、『目的』があり、ただ単に楽しむだけの為の祭りではなく、過疎化の進む地域では、「何とかして地域を活性化したい」、地域の交流が減ってきた地域では、「もっと地域の繋がりを強くしたい」等様々な願いが込められていることでしょう。小規模であれ、『祭り』が地域の活性化に繋がっている事例は数多くあります。ではここでその成功例として群馬県前橋市の事例を採り上げ、『祭り』と『地域活性化』の繋がりを探っていきたいと思います。

- 二、 群馬県前橋市日吉町二丁目。この日吉町は旧市街地でなく、高度成長期に次々に家が建てられるまでは農地が広がっていました。こうした新興住宅地で「この町には祭りが無い。子供たちに地域の祭りの楽しさを教えてあげたい。」と思い立ち始まったのが「二丁目の祭り」であった。祭りと言えば神事であることが多いが、この祭りでは古くから行われている伝統の祭りでもなければ、祭の母体たる氏神様を祀る神社さえない。地域の祭り好きが集まって作られた新しい祭りである。そして共通の目的を持った住民達が祭りの実行の為に頻りに会合を開くようになり、次第に地域の繋がりが活発になっていった。しかしこの会合が行われる以前は近所でも全く顔を合わせることがなく、隣人が何の業をしているかさえ知らなかったと言います。そしてこの祭りでは家が一軒建ってしまうほど高価な山車や御輿などを買いそろえ、見事立派な

祭りを実現させました。

この祭りで地域が活発になった事はもちろんですが、さらに注目すべき点があります。祭りを行う準備の過程で、「最近、町内で盗難が多い」ということが話題になり、みんなで問題解決に取り組もうと話が盛り上がったのだ。祭りの実行メンバーの中にたまたま電気工事関係者がいたため、防犯用のセンサーライト取り付けが提案されました。早速、希望する世帯にセンサーライトを工事費無料で設置するというボランティア活動が始まりました。こうした活動がまた住民同士の交流を深めることになったのです。今まで言葉を交わしたこともなかったような住民たちの間でもふれあいが増え、そこでまた様々なアイデアが提案されるようになり、さらには防犯カメラの設置、防犯パトロールの実施など……。こうして、「町の安全を自分たち自身の手で守ろう」という気運が盛り上がっていったのです。こうした活動が評価されて、この町は2007年度には「安全安心な街づくり功労賞」という総理大臣表彰を受けたのである。この祭りがきっかけとなり住民同士の繋がりが盛んになり、さらには町の安全対策まで生まれるという思いもよらない波及効果が生まれたのである。これが『祭り』が『地域活性化』に繋がった事例である。

- 三． それでは地域活性化のためにどうやって祭りを創出したらよいのだろうか。地域というのは個性があり、その地域特有の特色があります。それでは私の住む町の祭りについて少し述べたいと思います。私の住む町は人口7千人足らずの山と田園に囲まれた田舎町ですが、山には牧場がありそこには多くの牛が飼われています。そしてこの牛が私の町の『特色』なのです。私の町では年に一回町役場が主催する『モーモーフェスティバル』という行事があります。牧場に出店が並び、牛の乳搾り体験、牛のミルクで作ったアイスや、搾りたての牛乳が飲めるという内容で、町内からはもちろん隣町からも多くの子供連れの家族などが訪れます。これは私の町の『特色』ですが、もし地域で新しく祭りを開催しようという時には、フルーツの栽培が盛んな町では『フルーツ』を特色に、大きな川があれば『川祭り』なんていうのもできるのではないのでしょうか。全国には綺麗な川のある側で『メダカ祭り』や、田園が多い地域では『どろんこ祭り』といったユニークな祭りもあります。こういった地域の特色を活かせば新しく祭りを行う時の第一歩がスムーズにいくのではないのでしょうか。

もうひとつ大事な点が『祭りの運営』です。例で挙げた日吉町は、疎遠であった住民達が祭りの為に開かれる会合によって顔を合わせ、話をすることにより地域のふれあいが活発になりました。この『顔を合わせ、話す』ということはとても大事なことです。祭りを住民自らの手で行うことで、準備運営の段階、祭りの本番の段階であれ、多くの人がお互い身近に感じるができるでしょう。それは情報交換の場にもなり、日吉町であれば盗難の事件が多発しているなど、『顔を合わせ、話す』ことがなければ、こういったことは何も知らずに過ぎ去っていくでしょう。この情報交換によって多くの人が自分の住む地域を『知る』絶好の機会になるのです。

しかし顔を合わせ話す場があれば祭りでなくても良いのでは、という意見も出てくるはずです。祭りには効用があります。地域の結束の効果は勿論のこと、経済効果、さらには地域の認知度の向上が得られるというメリットがあります。そして何より地域の住民一人一人が何かに、ここでは祭りという一つの目標に向かって頑張るということが一番の地域活性化に繋がると私は考えます。

- 四．九州でも過疎化が進み限界集落と呼ばれる地域もあり、近年はさらに深刻化しています。今後さらに増えて行くだらうし、地域の繋がりの低下は田舎も、都会もさらに進んでいくのではないかと考えます。そこでこれからの私たちの生活に必要なのは、『地域が一つになる』ということです。今回取り上げたこの『祭り』により地域が一つになり、毎年の祭りをその地域の住民一人一人の手で造り上げていくことで、田舎であればその地域からの住民の流出の抑制になったり、祭の内容にもよるが、田舎よりも近所付き合いの少ない都会では、地域の交流が活発になる等のメリットが見込め、また、冒頭で述べた悲惨な事件の抑制にも繋がるでしょう。そういった意味でこの祭りの効用を活かさない手はありません。その地域の活性化、地域の繋がりの向上のきっかけに男性女性問わず子供から大人まで、みんなが楽しめる『祭り』であってもいいのではないのでしょうか。そして最後に何より大事なことは「もっと町を活性化したい！」、「もっと住みやすい街に！」という一人一人の強い意志だと私は考えます。